

平成31年年頭訓示式
渡辺復興大臣ほか年頭訓示

(平成31年1月7日(月) 10:00~10:15 於) 共用220会議室)

1. 渡辺大臣 訓示

皆様、新年明けましておめでとうございます。

本年もどうぞよろしくお願いを申し上げます。

平成31年の年始に当たり、一言御挨拶を申し上げます。

東日本大震災の発災から、そして、東京電力福島第一原発事故より8年目を迎えます。

私は、就任以来現地に赴き、45の市町村長などにお会いし、現場を見てまいりました。

そ

の間、それぞれの地域の状況については、この目で確認をし、進捗状況も確認してまいりました。地震・津波被災地域においては、まちづくりの進展が進められているところ

もご

ざいました。

しかし、地域によっては、まだ十分になされていないところもあります。こういった状況を見ながら、そして、原子力災害の被災地域においては、まだ復興がなし遂げられていないという地域も見てまいりました。

そういった状況、現場を見ながら、私は、この復興の状況をこれからしっかりと推し進めていかなければならない、その決意を新たにしたところでございます。

一方において、いまだ多くの避難生活をしている方がいらっしゃる。そして、正月もふるさどで迎えられない人がいる。こういった状況を見ていくなれば、私たちは、この人たちのためにしっかりと復興をなし遂げていかなければならない。そのように思うわけであります。

改めて、被災者の皆様方に思いをいたして、気を引き締めて職務を推進してまいりたい、そのように思いますし、皆様方もそのようにしていただきたいと思います。

発災から8年がたちました。復興・創生期間の終了まであと2年。本年が10年間の復興期間の総仕上げの時期です。そしてまた、福島の本格的な復興に向けて、確固たる道筋をつけていかなければなりません。

また、昨年末には、被災自治体の御意見も踏まえた上で、復興庁として復興・創生期間後も対応が必要な課題を整理し、公表したところでございます。

今後、今年度内に予定している『復興・創生期間』における東日本大震災からの復興の基本方針の見直しに際して、期間後の復興の進め方について一定の方向性を示してまいりたいと思います。

本年は、復興・創生期間後に向けた道筋をつける重要な1年であります。そのため、私は先頭に立って取り組んでまいりますので、職員の皆様方におかれましても、それぞ

れの持ち場で知恵を出し合い、一丸となって取り組んでいただきますよう、心からお願いを申し上げる次第であります。

また本年は、ラグビーワールドカップが開催され、釜石市では2試合が予定されております。来年には、東京オリンピック・パラリンピックが開催されるわけでありまして。

この機会を捉えて、国の内外において復興の状況を発信していかなければなりません。復興の主演は、被災者の皆様方であると同時に、被災自治体、企業、NPO、ボランティア団体などでありまして。この人たちと連携しながら復興に向け、日々困難に直面しながら現場で取り組んでいる方々に対して、私たちはしっかりと目を向けていかなければならないと思います。

職員の皆様方におかれましても、引き続き省庁の縦割りを廃し、現場主義を徹底し、被災者に寄り添いながら、スピード感を持って柔軟な対応を心がけていただきたいと思います。これがまさに、復興庁マインドだと思うわけでありまして。

本年は、平成最後の年であるとともに、新しい時代の幕あけでもあります。このような時代の節目に、内閣の重要課題である東日本大震災からの復興に取り組むことに誇りを持って、職務に精励していただきたいと思います。

「東北の復興なくして、日本の再生なし」。この言葉を胸に、東北を必ず復興させ、日本の再生につなげるという強い気持ちを持って、復興を加速化させるべく、ともに頑張っていきましょう。

皆さんとともにこのことを誓い合いながら、年頭の御挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

2. 橘副大臣 挨拶

新年明けましておめでとうございます。

大変お世話になってまいりました。ことしも今ほど渡辺大臣からお話がありましたように、大臣の御指示のもと、一つ一つの地域、あるいは皆さんがお持ちの課題を取り上げて解決することによって、東日本大震災の被災地の復興をなし遂げるべく努力をしてまいりたいと思っております。

あわせて、東京オリンピック・パラリンピック、また復興庁のこれからの復興の体制のあり方といったことについても、また御一緒に汗を流し、検討したり、働きかけをしてまいりたいと思っております。

どうか皆様方にも、健やかな1年でありますようお願いを申し上げ、よろしく願います。きょうは快晴でありますけれども、私のところは雪が降るところで、雪がたくさん降るようによいことが降り積もるよという歌で、御挨拶を締めたいと思います。万葉集の最後の歌であります。

「新しき年の初めの初春の今日降る雪のいや重け吉事」

どうぞことしもよろしく申し上げます。

3. 浜田副大臣 挨拶

皆様、明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願ひ申し上げます。

本年は、東日本大震災から丸8年を迎える年でありまして、「復興・創生期間」も残すところあと2年強となります。期間内の復興のさらなる加速、そして「復興・創生期間」以降の復興のあり方をめぐり、ことしは節目の年でございます。

福島では、特定復興再生拠点における整備の進捗を初め、本格的な復興再生に向けた取り組みが着実に進んでおります。

その一方で、被災市町村は復興の進捗に応じ、それぞれ異なる課題を抱えております。こうした中、被災市町村の首長や議長を初め、一人一人に寄り添い、抱えている課題を伺い、要望をきちんと受けとめ、真摯に検討し、納得感を持って応えていくこと、これが重要でございます。その積み重ねが復興だと私は考えております。

節目の年を迎えるに当たり、大臣もおっしゃいましたが、職員の皆様には改めて現場主義に徹し、被災市町村、そして被災者に寄り添った対応をお願いするとともに、私自身肝に銘じて取り組んでまいろうと思ひます。

(以 上)